夕刊 磐城新聞
四月二十一日發行
發行所 磐城新聞社

嚴愛の子女教育

(13)

古河炭鑛勞働係主任 前松佐嘉

然らば嚴と愛との調節は如何なる程度に加減すべきかと申しますと、子供には子供各自の異つた個性があり、又年齡體質等の相違もあつて心理の動き方がたの／＼違ふのでありますから皆の者を劃一的に扱ふことはよくありません。或る子供には嚴にするを可とし、或る子供には寛にするを可とする場合もあります。故にこの邊の呼吸は親自身の綿密なる觀察に基き取捨宜しきを得ねばなりません。併し一般父母の心情から言へば嚴よりも愛に溺れやすく制するよりも許すほうに流れ易いのでありますから親はこの點、絶えず自省して居らねばなりません。殊に母親の十中の八九は愛に溺れるを常態としますが、これが子女を毒することは甚だしいのであります

それで今私達夫婦の從來失敗した經驗から申しますと父親はむろ寛なる態度をとり、母親の方はその反對に嚴にするがよいと思ふて居ります。それは何故かと申しますに我子を思ふ親の情に厚薄はありませんが、父親はどこの家でも外的の活動を主としてゐる關係上子供に接する機會が少く隨つて愛の小出しをして居ないから普通子供は父親の愛情をば感じないで自分を可愛がつて呉れる者は母親ばかりの様におもふて居ります。それ故父親が時たま叱つてもその叱つた事ばかりが彼等の頭に殘り、父親は一も二もなく怖い者だと考へるのであります。而もそれが嚴に過ぎる場合であれば子供は全く萎縮してしまひ、父親の前には猫に對する鼠のやうになるのであります。併しこれは少年時代のことであつて斯かる子供が青年期に達すると今度は前と反對に著しく反抗心を起して父親を敵視する樣になる事があります。これ即ち父親が平素に愛の小出しをして居ない爲に彼等はその大恩には感じないで叱られた點ばかりを意識するからであります。處が母親の立場はどうかと申しますに常住不斷に愛の小出しをやつて居るのでありますから少しくらい嚴に過ぎてもそれが爲に母親を怨む樣なことはありません。否打たれても打たれても後から縋りついて來るのが子供の母に對する心情であります。例せば糖分の過ぎてゐる所へ少々鹽分を入れた所で殆んど利き目がないと同樣母親の嚴は少しくらい混へた所がそれで利き目のあるものでありません。寧ろ嚴に過ぎる位であつて漸くその効を奏するのであります。勿論嚴にするがよいと言つても事の是非をたゞさず又時と所を嫌はず親自身の私的感情から、只だ無暗にガミ／＼言ふのは宜しくありません

磐新歌壇

上小川 草野みどり子

春の喜び

○母と子と七輪かこみかるめ燒けば、甘き香りの煙たゞよふ
○新しき風呂桶出來ぬ窓明けて、梅の盛りに湯あみするかな
○芍藥のやうやく赤き芽をふきぬ、かたへの梅の花の散る頃
○松ケ枝の間より延びし萬兩の、葉に白ぼこり薄くかゝれり

潮聲

例會席上即吟互選 三月十七日北斗莊にて

陽炎。囀り。 出吟三十九章

4 カナリヤの囀づる朝の和みかな 長貴
陽炎ひし野や行く人の子をつれて
囀りや深山の瀬音かすかなる
4 春郊を耕す人やさへづれる 晩霞
陽炎や山腹の寺遠霞む
陽炎や物干す庭も塵塚も 石城
陽炎や荒磯の濱の空せ貝
桃の枝剪定ば鳥の囀りぬ 桃村
上野寛永寺
囀りや日のあたり來し朱の塔 武門
捨て水に陽炎もゆる戸口かな 松[illegible]

採點の成績
七點 華岳　五點 晩霞、長貴
四點 石城、水明　三點 松堂、香村子

渡り鳥

・古村徹三

ぬれた玉砂利
旭がさして
さくら落葉のうつくしさ

庫裡の方から
ことことと
漬物きざむ
――音かいな

鐘に、てのひら
あてゝ見る
兄んさよ兄んさよ
――渡りどり

ぬれた落葉に
旭がさして
金粉、銀粉、ひかります

現代詩歌の潮流 上

播間重勝

日本の現代詩歌は今その形式に對する異常な不安と懷疑とをむかへてゐる

あたかも大和民族の血液と共にあつたかの幻影を持たされて來た短歌傳統の三十一音律の韻文形式は今やあはたゞしい『嵐と迫り』の現代社會のたゞ中へ押流されその聖なる傳統の威力を失ひつゝある

短歌形式の止揚、短歌形式の自由律化の要求はもはや短歌に對する一部の歌人の非論理的な逃避ではなくて、短歌そのものゝ歷史的な限界性と文學的特殊性とについての十分なる認識と將來の文學的發展とに對する確固たる見透しの下になされてゐる全國的な巨大な潮流なのである

我々の前には常に『短歌の歷史的變革』の用意がなされてゐる。我々は何故美しい一千年來の文語をすてたのか、答は簡單だ、その歌語はもはや我々のとりあげる現實とは生々しい交涉を持たないからだ。我々は何故口語は汚ない粗雜なものだが、それは現代文學としてわれ／＼の取るべき唯一の言葉なのだ

我々は何故短歌の形式を止揚したのか。三十一音律は文語的歌語と豫め先驗的に規制された內容とそれらの成立を可能ならしめる一定の社會的條件を前提としてのみ韻文形式として可能なのである、從而此の前提の下にある卅一音律詩形式の現代の現實の社會への適應が如何に無力であるかは直ちに理解されるであらう

それ故此の『現實』に卽して歌ひあげるには三十一音律形式に適する樣に內容を歪曲し現實味を稀薄にして傳統的觀念形態に變形するか或は此の現實を押しすゝめることによつて『形式』そのものを移動して行くかの二つの方法しか有り得ない

社會の今日

4月22日 △カント生る(一、七二四)△米價の下落を計らしむ(貞觀二)△曆本を私に販賣する事を禁ず(明治三)△訪問航空試驗飛行太刀洗到着、飛行時間六時間三十四分△故濱口狙擊犯佐鄕屋留雄に死刑判決言渡(昭和七)

4月23日 △英國ガーター勳章創設(一、三三四)△沙翁生る(一、五六四)△殉死を禁ず(寬文二)△寺田屋騷動(文久二)△滯貨生糸十萬七千八百餘俵旭シルクへ賣却決定△東都六大學リーグ戰始まる△匪賊盛に襲來し北滿の交通杜絕す△聯盟の形勢一變、委員會で代案作成(昭和七)△フランス女流飛行家イルズ孃は羽田飛行場を出發歸還の途に上る(同八)

○

死を以て當るが如し猫の戀 月斗

くたびれて君が脫ぎたる白足袋の、ほこりも花の名殘りなりけり 谷崎潤一郎

講談 浪人長屋

日岐武志作 月草道子畫

(68) 破門

長火鉢を中にして、また朝ッから手入らずの向ひ酒である

『困るな、酒は』

鐵之助は昨夜またしてもこゝで泊つてしまつた事を今更に悔いてゐた

『お顔にぼッとくる位おあがんなさると、二日醉ひの時は却て氣色が良なりますよ、さアお干しなさいな』

『では、一杯だけです』

一杯だけが鐵之助には恐ろしかつた

『一杯だけなぞと、水臭いぢやありませんか。たまには底を拔いて怠けてごらんなさいな』

『修業の身分、さうはゆかぬ』

『でも、ヤットーばかしがお武家の仕事やござんすまい。酒をおぼえることも女を知ることもやつばし修業の一つぢやございませんか。でも、こんなお婆あさんでは、あんまり女の方の修業にはなりませんでね。……』

『いやよい修業になりましたね』

『あレ、いやですこと、鐵之助さん』

お秋は年甲斐もなく聲をはづませて笑つた

『ね、鐵之助さん』

お秋は急に聲を落して

『年下のあなたとこんな仲になつてしまつて、あたし今日このごろ、妙な氣がしてなりません。何時も離れなくなるんぢやないかとそんな氣がして……』

お秋は氣が引けてか、急に口ごもつた。その白い横顔が妙にしんみりと思はせた。鐵之助はだまつてゐた女をおしへた女である、鐵之助の身も魂もかきみだした女である。お秋を憎みたくもある。夜も晝も、お秋の傍らにゐて妖しいやうなはげしい色と香に包まれてゐたくもある。このまゝずるずると女に引かれてだんだん自分で自分の身を落してゆくのではあるまいか。さう思ふとお秋の姿が妖しい鬼女のやうにも見えてくるのだ

『酌を……』

お秋は、ちよつとおどろいて

『大丈夫でござんすか』

と、却て案じる樣に鐵之助の顔を見た

『一つ、うんと飲んでみよう』

と言つて、さりげなく笑つた

明日は明日の風が吹かう

明日の命も、明日の花も今日の此うま酒に代へられよう。たゞれるばかりの戀の酒に醉ひしれるのだ。四日目の晝ごろ、鐵之助は、むせかへるやうな女の寢間から漸くかへる氣になつた

『歸つたら、きつと破門ぢやらう』

悲しいやうな、薄い笑ひを蒼ざめた顔に浮べて、鐵之助は眞夏明るい外光へ出ていつた。お秋は後から切火を打つていとしい男に事なかれと、路地から通りへでるまで、鐵之助の後姿を見送つてゐた。むし暑い日だつた、夕立があるだらうと思つてゐると案の條、四時頃になつて、たうとうきた。天も地も眞ッ暗になつたと思ふと、雨戸を繰る暇もあらばこそ、ほんとうに盆をくつがへしたやうな大雷雨だ。その雷雨をついて全身びしよ濡になつて飛こんで來たのは鐵之助だつた。お秋は雷におびえて雨戸を締めきつた暗い奥の部屋にふるへてゐた

『お秋殿、たうとう破門ぢや』

『ねッほんようでござんすか』

鐵之助がかううなづいてみせると

『まア』

とお秋は驚いた

『破門なんか、なんでもないでせう。あたしの所にいつまでもいつまでもね』

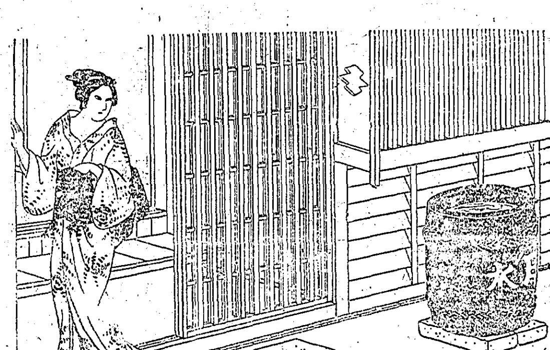
とたんに、ピカリッ!

『あレッ』

と叫んでお秋ぬれ鼠の鐵之助の脇にしがみついた

『あ、ハハハ……』

鐵之助は暗がりでお秋を抱ながら、くるつたやうに笑ひつゞけた、雷が轟き渡つた



二十二日
日出 五、〇一 月出前 一一、〇七
日沒 六、一九 月沒前 〇、五四
滿潮 前 〇、一五 前 七、五五 干潮 前 八、三〇 後 七、一五
上弦 前 六、二〇

二十三日
日出 五、〇〇 月出後 〇、〇六
日沒 六、二〇 月沒前 一、二六
滿潮 前 一一、二五 後 一一、三五 干潮 前 八、三〇 後 七、一五

新四月二十二日 日曜 舊三月九日 癸亥 大安 危 昴宿

諸判定廳當 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神[illegible]

▲一白の人 牙城に肉薄して實戰を試むべく勝利疑なし▲二黑の人 前途の光明を期待して益々練まの功を積め▲三碧の人 大功を樹てんとして他力に依賴し失望せん▲四綠の人 ふえつに堪へず大木の倒るゝが如し注目が吉▲五黃の人 輕忽なれば衰運は益々不良に傾かんとすきよう▲六白の人 萬事偕意の念充滿して巡事を遂げ難き日▲七赤の人 信望とみに落ちて同情は失はれ首尾全からず▲八白の人 業績意の如く伸びず油斷すれば更に惡化す▲九紫の人 氣運佳なれど勞に馳せでつまづくことあるべし

新四月二十三日 月曜 舊三月十日 甲子 赤口 成 畢宿

▲一白の人 崩れても屈せず積木細工の積上りを樂しめ▲二黑の人 短慮を起して一瞬に功を失ふ日當諸移轉きよう▲三碧の人 大器晩成の發悟を以て堅實に進まるゝが吉▲四綠の人 平穩に過ぎて怠意を感ず緊張せざる可らず▲五黃の人 內心期する所あるも實行にちうちよし不安の日▲六白の人 重荷は一度に運ばんとせず二度三度繰返せ▲七赤の人 內輪に紛擾事の起らんとする日移轉開業きよう▲八白の人 技量優れし飛行士も機械の故障に離を蒙る▲九紫の人 暗夜に提灯を得たる如し前途樂々と進まん

御花見の御催し 宴會等の節は
敷物、幔幕等準備致し置きますから大小に不拘御用命の程を御待して居ります
折詰の御註文は特に勉强致します。
公園內 割烹 尼子亭 電話二三〇番

新車購入御披露
御待ち兼ねの一九三四年マスターセダン!! 本縣下第一車が
皆樣の昭和へ入りました
ニーアクション裝置絶好の乘心地、是非御試乘の程御願ひ致します。
呼び良い電話三四〇番增設致しました。
平驛前 昭和タクシー 電話 三三〇番 三四四番

貸切り専門優良車
乘心地の超特快適な三四年型フォード着
何卒御用命願ひます
平町四丁目 鈴木自動車部 電話二二一七番

永い間車輛不足で皆樣に御不便を御掛け致し申譯御座いませんでした。今度增車許可を得ましたので新車を購入致しましたから是非御下命下さい。なほ松崎タクシー部を讓受けましたので新車を購入し皆樣の御氣に召す樣致します。車は最上とは申上げ兼ねますが『堅實第一』の營業方針と不二タクシーの名を辱めぬ樣從業員一同努力致します故何卒倍舊の御愛顧の程御願ひ申上ます。
平驛構內並ニ貸切專門 不二タクシー 電話三二番

營業所移轉廣告
從前タクシー及トラツク營業格別御引立に預り難有御禮申上候、今度營業所を左記へ新築移轉なし營業の合理化策としてトラツク營業單一擴張なし一意專心努力なす可候間何卒舊に倍し御愛顧の程願上候
隨つてタクシー營業は當分の間休業仕候
四月十八日
白銀町十番地 松崎自動車商會 電話三九二番

看護婦見習二名入用
小學卒業程度のもの希望者履歷書送付あれ。
詳細面談
平町南町 織田齒科醫院 電話四一六番

職工徒弟募集廣告
◇大工職 五名
◇女工 五名
◇徒弟 八名
◎挽物及木工玩具製作トシテ合理的製作方ヲ望ム人
資格{年齡―拾三四歳ヨリ拾六歳位迄 學歷―尋常科卒業又ハ以上ノ事
◎御希望者ハ至急御面談又ハ御問合セヲ乞フ
各種挽物 木製敎育 玩具木馬 專門製作
平町十五丁目(共濟病院向) 佐藤木工製作所 電話三八一番(呼) 振替口座東京五七一七五番

御通學には 魂の這入つた……
フタバの自轉車で
責任保證付。總クローム
東京製新車 廿五圓ヨリ
一年保ツ中古車 十圓前後
フタバ式リヤカー發賣元
フタバ商會 平。新川町。月見橋際
(見習生貳名採用)

義務教育費國庫負擔交附金 郡下へ十七萬四千圓

千二百圓（箕輪）乃至二萬圓（内郷） 全縣の一割三分强を占む

市町村義務教育費國庫負擔法第三條前段の本縣交附金は總額百二十九萬二千三百二十四圓八十二錢であり郡下町村に對する割當額は左の如く決定した、この割當額を四月、七月、九月、十二月及び明年二月の五期に分割交附する譯である、從來の交付金は前年度の未拂俸給費に充當してゐたが本年度からは必ず本年度の俸給費に充て、若し前年度の未拂俸給に充當するやうなことがあれば返還せしめるといふ嚴命であつて前年の未拂給は極力市町村税を整理して充當せよといふのである、尚割當金算出の基礎は敎員一人當り百九圓六十一錢六厘五九九八、兒童一人當り二圓六十八錢四厘〇三二五三二である

入遠野	三、六七二、九五
高久	二、〇〇一、五四
江名	四、〇五八、五九
鹿島	一、六三九、二〇
玉川	一、九九〇、三八
湯本	三、二七五、八四
好間	一〇、二九六、三〇
永戸	二、六〇九、一〇
澤渡	一、六四六、八二
神谷	三、一八二、一〇
大浦	三、七八三、〇〇
大野	三、三三七、八七
上小川 下小川	三、五四七、一三
小名濱	八、二九七、〇三
磐崎	六、〇四六、四三
内郷	一九、七七七、二〇
赤井	六、六〇一、一三
箕輪	一、二二三、五五
三坂	二、五九六、四六
草野	四、一六八、六四
四倉	五、七七五、六一
平窪	二、五五五、六〇
川前	二、七〇三、四七
泉	三、三三三、三七
植田	四、四〇三、四五
錦	二、九六七、九〇
川部	三、二〇三、九三
平	一七、九六八、〇六
飯野	二、七四〇、六二
上遠野	三、九五四、七八
夏井	二、二四七、六二
豊間	三、二六八、〇九
渡邊	一、九三三、八五
山田	二、七六六、九三
勿來	七、一二七、七五
田人、荷路夫、貝泊、石住	四、三三一、一九

平局 電話架設申請受付

設備費の二百四十圓は 二回に分納も出來る

平局に於ては五月一日より五月十五日迄本年度電話別開通の申請を受付くることゝなつた、設備費は昨年同樣二百四十圓加入登記料拾圓であるか既に申込登記を有してゐる者は新に登記料を要せす又受理決定上優先權を有してゐる。受理決定の上は設備費を二回に分納することも出來るが本年度よりは愈々多年懸案の通信事業特別會計も實施せられ、早晩使用料の輕減も考慮されてゐる折柄加入の良き機會と言へよう。既に加入申込登記を有してゐる者は必要により其申込權讓渡も認められてゐる、尚詳細は平局に照會されたい

現代科學の粹に 泌々驚異の目を瞠る

昨日局の參觀人千數百名

制度實施以來茲に六十四年遞信部内の誇るべきモニユメントたる昨二十日行はれた記念日制定に方り特定二等の平局でも既報の如く朝來局内を開放し實際執務狀況や諸種の統計圖表などで通信事務各般の機構を知らしめ民衆に裨益する處大なるものあつたが就中廣範圍に亘る電信事務の多忙な發著中繼狀況、模擬電信局、電話交換實況などは何れも少からず觀る人の關心を喚つた、觀覽者は老若男女あらゆる階級を通じて合計千數百人に上つた

功勞役職員

農會で廿三名表彰

郡下中堅農民講習生約八十名の入所式は今廿一日午前十時から平園体事務所樓上に開き終つて左記農會役職員二十三名の表彰式を行つ

小野清　豊間村會長鈴木藤治郎　同副會長山野邊茂五郎　四倉會長新妻盛同會計遠藤安次郎　鹿島同高萩三郎　高久會長本馬武　同書記猪狩久男　渡邊會計橋本勘　書記岡部宗平　下小川會長白井菊造　書記櫛田政松　好間會計鈴木榮一　書記鈴木幹彌　内郷幹事齋藤彌一　書記野木安吉　飯野書記森山豊次　同副會長箱崎才三郎　湯本同坂本左内　小名濱同長瀬金右衛門　書記長瀬國三郎　平町農會會計大河原金之助　平窪書記關場和一

盲の身で高等官

磐訓出身の金成甚五郎氏 和歌山縣立校長に榮進

磐城訓盲院第五回卒業大野村戸田生れ金成甚五郎氏は此程和歌山縣立盲唖學校長に榮進高等官七等に叙せられたが

同氏は大正三年十五才で訓盲院から東京盲唖學校に入學、初等、中等部を了へて更に師範に入り大正十三年優秀な成績で同校を卒業すると直に前記和歌山同學校に奉職、昭和二年敎頭、此程校長が東京盲唖學校長榮轉の後を襲つたもので年令三十七才、將來を囑望されて居ると

磐城訓盲院では近く氏の展墓歸省を機して盛大な祝賀會を催し同院出身最初の高等官の前途を祝福すると

模範運轉手表彰

平町野崎自動車合資會社中野正雄君は走行哩數五萬一千二百〇哩其使用法宜しく長距離の走行に耐へしめ一般の模範とすべきものとして純銀製卷煙草入一ヶを添へ會社から表彰された

けふ丈け降り通して 明日曜は大体晴れる

小名濱測候所の觀測は お花見支障無し

ハチ切れそうな三春の行樂氣分から花の遅きを喞つたも束の間一兩日來パッと咲いて今土曜日から明日曜へ掛けては先づ以て咲きも殘らず散りも初めぬと云ふ絶好の見頃、けふこそ片倉製糸の數百名一團が松ヶ岡の廣場に他に見られぬ女人王國を現出するを始め、愈々今日が皮切りの假ホームから吐き出さるゝ人群れによつて全園の賑ひは花見氣分の最高潮に達する筈であつたが好事魔多くして朝來の雨、催花の雨には時遅れた降らでもの品ものに天を仰いで長大息する人蓋し幾人ぞ、而も不幸之の天候にして明日曜も恢復せずんば今年の花は之れで大体の丸潰れと云ふ事になるが、さて今後の天候はどうあるか?、次は小名濱測候所空の打診とある

この雨は可なり强くなるかも知れぬが大体けふ日中丈けで夜になると小雨がある位の處で夜半から霽れ上り明日曜は時々雲が出て快晴と迄は行かぬにしても今の處晴天の見込みである、尤も一時恢復しても長續きはしさうも無い。云々

平日の約五割增

好晴温暖に惠まれた 昨初酉の平驛

山の遊行第一日である昨廿日の初酉は朝來好天候に惠まれた關係から人出非常に多く花の松ヶ岡は今春最初の賑ひを呈し、川波無煙炭鑛員を筆頭にした炭城團体六百餘名の大小團体が入り込み爛漫の花下に展開されるさんざめきは深夜まで續いた此日の平驛は

（午前）降—下り一、一一四名、上り七六二名

（午後）同—下り四九三名　上り二四五名

下磐東線の六百四十五名を合せ降車は三千二百五十九名、乘者の四千二百四十九名で合計七千五百八名と云ふ平日より約一倍半の大雜沓を呈した

投槍

投書歡迎

記。念。日。の。平。局。見。學。

◇二十日の遞信記念日制定に際し平局が局内を公開し、實際の現業振りや諸種の統計圖表、ポスター等により民衆をして現代科學日本の通信機構を周知せしめ[illegible]は寔に機宜に適した近來の思ひつきであると思ふ

◇尤も郵便年金を奬勵する爲對蹠的な禍福を表示する人形などは構想が餘りに陳腐に其間極めて寓意に乏しく、又爲替貯金の取扱系統を示した圖表其他の中などに說明無しには一寸判り兼ねる樣なのも無いではないが色々な統計中成程首肯せしめらるゝものゝ少くなかつたのは嬉しかつた

◇殊に各方面別に裝置された全國電信網の蜘蛛の集めのやうな複雜さなどは確かに觀る人に初めての世界を知らしめたものであり殊に目にも止らぬ電話交換の指先藝術を眺めては無智な加入者の恐圖つくのが無理[illegible]事を敎へられた

◇見學後の感想を率直に云ふと該催しに對する當局の苦心の跡は充分に之を看て取られるが折角之丈けの催しに宣傳の足りぬ事であつた、次回は大に事前の周知に細心な計劃を樹てられ度い、之れ民衆の啓蒙上にもよし主催側の張り合ひも出て來ると云ふもの（松男）

雨の歇み次第 假ホーム實施

鐵道當局の日和見

同驛では最頂季である今明兩日に亘り臨時列車を運轉下り着列車には公園下に假停車せしむべくはり込んで居たが皮惜な雨に祟られ天候上り次第實施する事に變更したと

簡保休憩所

平局では明廿二日から松ヶ岡第二公園下に簡易保險加入者無料休憩所を設け茶菓の接待をすると

片倉製糸の花見延期

片倉磐城製糸の觀櫻會は今二十一日午前十一時より第一公園で催し櫻音頭、東京音頭、及同場獨特の木曾節、伊那節踊りに大に氣勢を昂げる筈であつたが雨の爲に明二十二日へ延期したが明日曜にして尚ほ天候が恢復せぬ場合は無期延期すると

世相萬華鏡！

役僧不妄語戒を犯す 轉住を裝つて旅費騙取

平町材木町居住赤井嶽常福寺役僧桐原鳳然（二八）は去る昭和四年五月中湯本町表町惣善寺住職森文雄より茨城縣久慈郡に轉住を裝ひ旅費二圓を騙取した外同樣手段で東京、豊間村方面から合計五件十五圓を詐欺取した事發覺十九日平署に檢擧目下嚴重取調べ中

洋服屋荒しの 鮮人窃盜團送檢

一味八名罪狀洗はる

平町大崎、佐川兩洋服店を荒した外帝都鮮人窃盜團と提携阿片の密賣など大それた計劃を樹てゝ居たが去る十六日首犯の檢擧と共に一切の罪狀を洗はれた左記八名は以來平署渡邊部長係り取調べ中だつたが取調一段落、明後廿三日一件書類と共に送檢される

（首犯）當時住所不定無職高橋政男事張時景（三六）

（共犯）當時赤井村大字赤井字畑子澤山口飯場内坑夫青木弘事李大南（三七）同山口金太郎事威大袖（四〇）同草野晉吉（五二）好間村大字大畑隅田川炭鑛坑夫武田飯場内靑木潤之助事李道伊（三六）同森本飯場内同坑夫崔伊仁（三二）同金村金太郎韓信用（三二）大防市東成猪飼野東三丁目二一二三安雲瑞（二九）

醉つて狼藉

傷害男に三十圓

大浦村大字大森字館一二八土工猪狩重太郎（四六）が去月二十一日同村大字上仁井田字ノ月一四八阿部ハナ方に立寄り飲酒中午前十一時半些細の事から口論憤慨して木田榮吉（五三）に有合せた鏡台を投付け頭部に加療三週間餘の裂創を與へ平區より略式で罰金三十圓

列車に刎ね飛ばされ

草野の老爺頭部紛碎

草野村大字六十枚無職大平松三郎（六四）は今廿一日午前七時半頃自宅より二間程隔れた信號所附近を通行中折から驀進して來た草野發七時十分上り列車にはね飛ばされ頭部を强打直に醫師の手當てを受けたが二時間後死亡した

。。歷死。　湯本町入山炭鑛機械工木田源次（四〇）は昨廿日午前九時頃作業中木材に胸部を打たれ重傷間もなく死亡した

。。。。平商義金送付　平商校では函館災害義捐金を來二十四日迄に取纒め送付すると

浪江生れのルンペン公 平地方を盜み廻る

明後二十三日判決

住所不定無職双葉郡浪江町大字樋渡字西御門二九生れ武内里司（二九）が去月上旬から今月上旬に掛け前後六回に亘り平第三校物置小屋外五ヶ所から山下卓外五名所有自轉車五臺（價格百五十五圓）雜品（價格五十三圓七十錢）を窃取した事件は昨二十日午後二時より中島判事、野木檢事係りで公判開廷、懲役二月を求刑、判決は明後二十三日開かれる

情痴の放火犯服罪

求刑通り懲役二年半

双葉郡津島村大字赤宇木字休石開墾地農遠藤吉藏（五七）に係る放火事件の公判は二十日午前十時より平支部で中島裁判長係り開口、武内兩判事陪席、野木檢事關與武田辯護士（官選）立會開廷求刑通り懲役二年六月の即決言渡しに對し被告は今二十一日服罪した

。。。。平地産採集。　磐城博物會明二十二日の第五回野外採集會には飯野村谷川瀬方面に平地産採集を行ふと

鎌田民陳情

道路橋梁に關し 關係各官邊へ

平町鎌田、神谷間國道の直線改修計劃に對して鎌田町を繁榮に導く機宜の成案を得た同町橋梁研究委員は擧に關係各方面に取敢えず陳情したが更に近く夏井川改修事務所、町當局、土木監督所に正式陳情書を提出、目的達成に努むる事になつたと

。。。。。樗木篤夫氏控訴審　平支部の判決に不服で宮城控訴院に控訴した小名濱築港疑獄の立役者元内務省技師樗木篤夫氏の公判は去る四日開廷する筈だつたが病氣のため千葉縣中山在に加療中なので六月二十五日公判開廷されると

借金を其儘

湯本の坑夫に說諭

湯本町入山炭鑛四坑々夫秋田縣由利郡笹子村生れ小沼修藏（三四）は過般郷里の知人である山川シカ（四三）より白米を買ふからと百圓を貸りた儘返さぬので今廿一日シカから平署に說諭願ひを出した

編輯部員　依願退社　鈴木正

編輯員　入社　岡崎光一

縣社神輿 奉仕町決定

縣社子鍬倉神社氏子總代會は昨廿日開き來年度神輿奉仕區を新川町に決定した

。。行倒。　埼玉縣大里郡吉岡村大字櫻井七〇三生れ德好弟木野權八（三五）は昨廿日歸鄉の途次平町本町通りで持病の胃痙攣を起し町役場から醫料を惠まれ旅出つたした

。。傳貧　入遠野村平子秀吉所有牝馬（十五才）は此程檢診の結果傳染性貧血馬と決定昨廿日撲殺した

。。。。愛婦へ寄附　平町一丁目酒井サイ子、才槌小路松本文枝、新川町草野キヨ、二丁目根本フミ、新川町松崎マツ、南白銀吉田美代子、二丁目伊關イクの諸氏は各五十圓、五丁目諸橋令子氏は五百圓は何れも愛國婦人會へ寄附した

他人の牛で 手付金詐取

買手モウ懲り〳〵

永戸村大字永井藥谷要（三〇）は去る五日平町堤の内食肉業大塚武雄方に於て牛二頭を賣るからと他人の手を見せつけ手付金五十圓を詐取昨廿日平署に檢擧

青春惱なし

女事務員謎の家出

伊達郡保原町同町蠶桑取締支部事務員中原ヨシ（二三）は去る四日朝平常通り家を出たまゝ謎の家出をしたが石城地方の知人を頼つて來たらしく實父熊谷卯吉から平署に搜索方願ひ出た

。。。。商友會總會　明二十二日午後一時母校講堂に於て催すが八年度決算、九年度豫算に就いて協議する

平ゆべし　一折金十錢
高梁餅（タカラモチ）（日滿提携新菓）一折金十錢
賣始めました。
田町　日進堂　電一八六

徽章
團体徽章一ケ一錢ヨリ
御一報次第見本持參仕候
平町田町　ハシモトヤ糸店　電一四

吸入用酸素　純度九九%
度量衡　モノサシ　マス　ハカリ
[illegible]　体温器　寒暖計
◎秤ノ[illegible]致シマス
開内藥局　電話四〇番

新車御披露
乘心地のよい三四年式デラックスセダンが入車致しました
貸切の御用命の際は是非電話六八五番へ御試乘の程願ます。
平町貳丁目　三井タクシー　電話六八五番